

財政特集

平成18年度決算
 一般会計決算額は、歳入総額が134億8332万7千円、歳出総額が128億579万9千円となりました。電算システムの統合など多額の合併関連経費を要した前年度決算（旧市町決算額を加えた通年決算額）と比較すると、歳入で11・7%、歳出で10・9%それぞれ減額となりました。

歳入では、市税が36億92

36万8千円となり、前年度比8708万円の増額となりました。また、地方交付税は45億1535万2千円と7年ぶりに増加に転じ、前年度から2億9905万8千円の増額となっています。一方、財源不足を補う基金からの繰入金や市債は、歳出規模の縮小などに伴い、前年度からとも

に8億円を超える減額となりました。

歳出では、八日市場駅南口広場や市道の整備などの投資的経費が12億223万7千円となつたほか、人件費や市債を返済する経費である公債費、生活保護費や児童手当などの扶助費といった義務的経費は66億8472万2千円となり、歳出総額のほぼ半分を占めています。

平成18年度決算から市の財政状況を年度別に比較してみます。左ページのグラフは、平成17年度までは旧市町の決算額を合算しそれぞれ通年ベ

ーズの決算に置き換え、年度別に歳入・歳出及び主な財政指標の推移を表したものです。

歳入の根幹となる市税は、平成9年度と比較すると3億6千2百万円、また、普通交付税臨時財政対策債を含む）はこの10年で6億5千7百万円の減額となっています。

これまで財源不足については、財政調整基金などを取り崩して補ってきましたが、平成18年度末にはこれらの基金もほぼ底を突きつつあります。

平成18年度決算



開通した八日市場駅自由通路

平成18年度決算と市の財政状況を

お知らせします

平成18年度の各会計の決算がまとまりました。匝瑳市としては二度目の決算ですが、前年度は合併日の1月23日から3月末までの決算調製であったことから、通年ベースによる決算としては今回が初めてとなります。平成18年度決算から見た市の財政状況について、一般会計を中心にお知らせします。

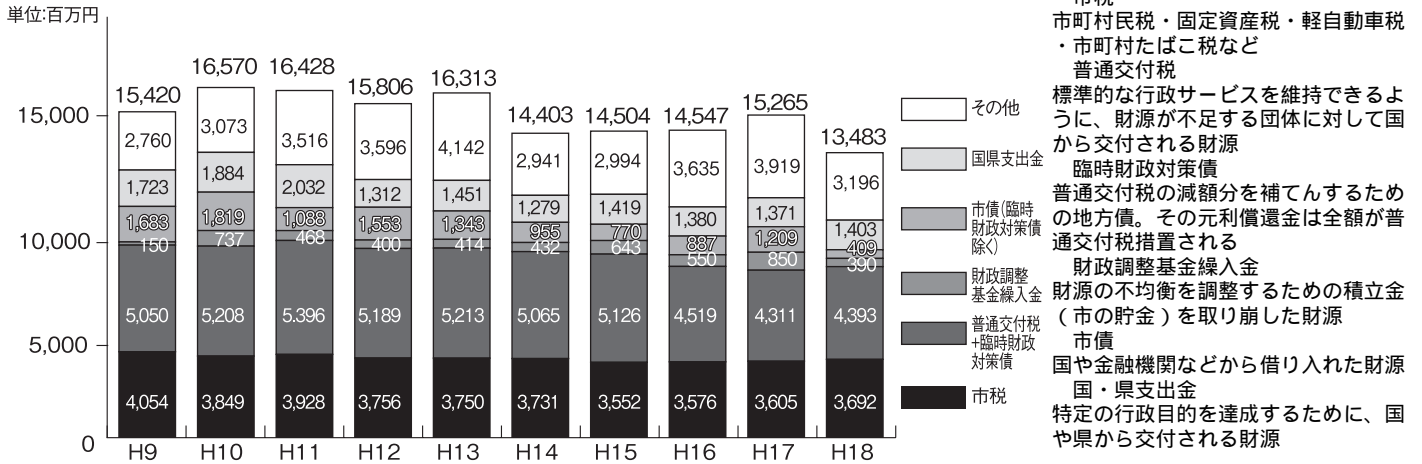
財政状況の推移

主な事業		平成18年度会計別決算額		
市内循環バスの運行	5,358万円	【一般会計】 歳入 134億8,333万円 歳出 128億5,760万円 【特別会計】 国民健康保険特別会計 歳入 45億8,002万円 歳出 43億9,265万円 老人保健特別会計 歳入 30億4,708万円 歳出 29億8,999万円 介護保険特別会計 歳入 22億5,422万円 歳出 21億5,397万円 病院事業会計 収益的収支 収入 26億8,657万円 支出 26億7,034万円 資本的収支 収入 1億3,146万円 支出 2億5,958万円		
老人保護措置費	9,153万円			
養護老人ホーム「瑞穂園」の管理委託	1億3,040万円			
児童手当	2億2,841万円			
保育所の運営	6億7,068万円			
生活保護費	2億5,855万円			
病院事業の運営補助	3億5,416万円			
水道企業団水道事業補助	2億6,815万円			
排水機場維持管理費	1億66万円			
道路の新設改良費	4億1,630万円			
八日市場駅南口広場整備（自由通路）	1億9,773万円			
消防組合の運営	6億3,350万円			
野手浜総合グラウンド整備	6,264万円			
主な基金（市の貯金）				
財政調整基金	3億9,463万円		土地開発基金	1億85万円
減債基金	7万円		スポーツ振興基金	1億20万円
社会福祉振興基金	5億297万円	育英資金貸付基金	1億5,738万円	
ふるさと振興基金	1億9,115万円	学校施設整備基金	9,341万円	

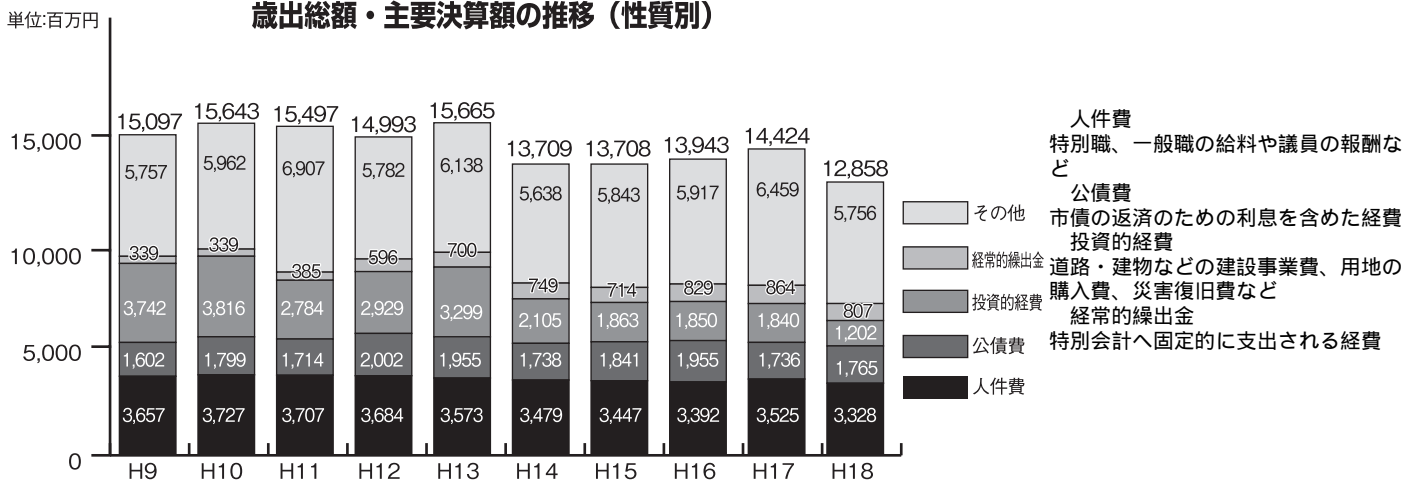
今後、人件費の削減など合併による財政効果は期待できるものの、当面はなお一層厳しい状況が続くことから、市

では財政の健全化を最優先課題に、持続性と自律性のある財政運営の実現に取り組んでいきます。

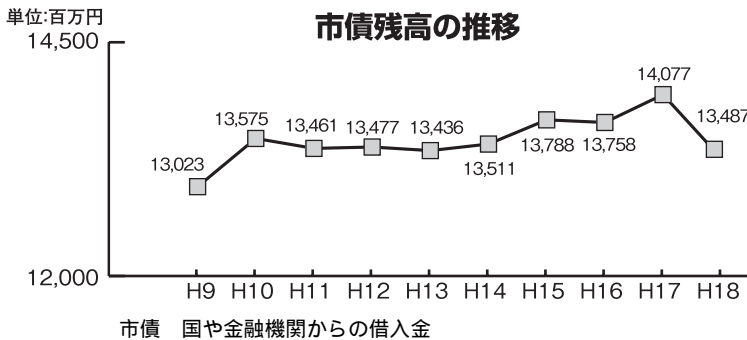
歳入総額・主要決算額の推移



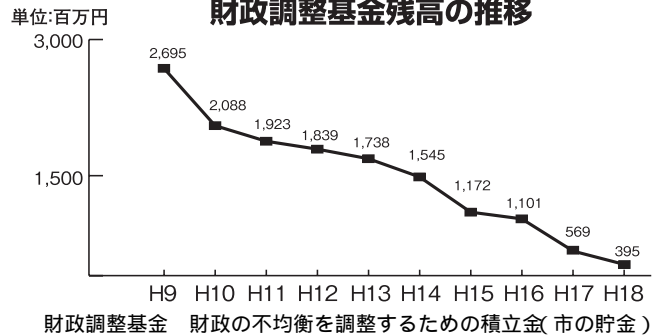
歳出総額・主要決算額の推移(性質別)



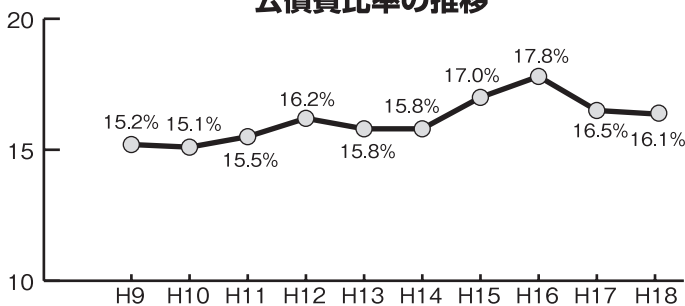
市債残高の推移



財政調整基金残高の推移



公債費比率の推移



経常収支比率の推移

